

インフォメーション・コーナー

会 告

「(社)農業土木学会」の名称が「(社)農業農村工学会」に変わりました	88
学会正会員のうち60歳以上66歳未満の会費改定(7,200)について(再掲)	88
(社)農業農村工学会名称変更記念論文の募集	89
平成19年度会員名簿の掲載事項について	89
農業農村工学会ダム研究委員会シンポジウムの開催について	90
名称変更を記念するシンポジウム「農業農村工学会に期待する」(案)の開催	90
地球温暖化と農業資源に関するシンポジウム(案)の開催	90
平成19年度農業農村工学会大会講演会企業展示コーナー出典募集	91
平成19年度農業農村工学会大会講演会の交流会に係る時間等の変更について	91
平成20年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再)	91
平成20年度日本農学賞候補の推薦について	91
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	92
平成19年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について	92
「農業農村工学会学術基金」の募金について	93
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	93
「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」発行のお知らせ	93
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお知らせと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	94
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお知らせと編集事務局(投稿先)のお知らせ	94
農業農村工学会誌への投稿お待ちしております!	95
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!「水土の知(農業農村工学会誌)」平成20年夏季の表紙写真の募集	96
平成19年度東北支部総会・第51回研究発表会並びに第41回支部研究会・第31回地方講習会の開催について(第2報)	97
第58回関東支部講演会の開催について(第2報)	98
平成19年度九州支部第88回講演会・ポスターセッション・第30回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について(第2報)	100
平成19年度資源循環研究部会研究発表会の開催について	102
平成19年度農村道路研究集会開催のお知らせ	103
農業農村工学会論文集第250号内容紹介	104
学会記事	107

第75巻9号予定

展望 : 吉永 安俊

小特集 : 農地からの土壌流出およびその対策

傾斜畑における承水路の土壌流出抑制効果 : 中尾 誠司
 草生帯およびソバ栽培導入による営農的赤土流出軽減対策 : 塩野 隆弘他
 亜熱帯島嶼流域での懸濁態土量、窒素、リンの推定流出量 : 坂西 研二他
 WEPPを用いた黒ボク土傾斜畑地における浸食量予測 : 小谷 義将他
 湖岸水田流域における循環灌漑の濁水負荷削減効果 : 濱 武英他

小特集 : 農業農村整備事業における工事等の品質確保に関する取組み

農業農村整備事業における工事等の品質確保に関する取組み : 矢野 均他
 品質確保技術者制度の創設と運用 : 濱石 辰雄他
 品質確保技術者からの視点 : 長沼 満富他
 発注者支援機関としての現状と今後の展開方向 : 小笠原繁哉他
 品質確保を支援する農業土木技術者継続教育機構 : 小泉 健

技術レポート

北海道支部 : 徳富ダムの1mリフトのRCDコンクリートにおける過速凝結対策 : 久保田利之他
 東北支部 : 庄内砂丘地帯における地下水排除対策について : 伊藤 富弥他
 関東支部 : 希少生物の保存に配慮した排水路整備 : 角田勝祐紀他
 京都支部 : 視覚障害者誘導用ブロックに関する一考察 : 稲田幸仁
 中国四国支部 : 高知県新庄川における魚道整備 : 今橋真二
 九州支部 : 石灰系固化材と石こう混合物による改良土を利用したため池工事について : 下窪健一

講座 : 生態系配慮の基礎知識(その3) 水田とため池の植物層 : 嶺田 拓也

小講座 : 広域における土壌浸食量の推定 : 小川 茂男

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 19 年 8 月 28~31 日	大会運営委員会	平成 19 年度農業農村工学会大会 		松江市	74 巻 12 号 75 巻 1,3 号
平成 19 年 9 月 6, 7 日	農村計画研究部会	第 29 回現地研究集会 		奈良市	75 巻 2,6 号
平成 19 年 9 月 13, 14 日	畑地整備研究部会	第 46 回畑地かんがい研究集会 		名古屋市	75 巻 7 号
平成 19 年 9 月 20, 21 日	農地保全研究部会	第 28 回研究集会 		美瑛町	75 巻 4,5 号
平成 19 年 10 月 4 日	ダム研究研究会	ダム研究委員会シンポジウム 		東京都	75 巻 8 号
平成 19 年 10 月 9 日	行事企画委員会	地球温暖化と農業資源に関するシンポジウム 		東京都	75 巻 8 号
平成 19 年 10 月 18, 19 日	九州支部	第 88 回講演会・第 30 回地方講習会 		佐賀市	75 巻 5,8 号
平成 19 年 10 月 26 日	資源循環研究部会	平成 19 年度研究発表会 		東京都	75 巻 4,8 号
平成 19 年 10 月 25, 26 日	中国四国支部	第 62 回研究発表会 		宇和島市	75 巻 6,7 号
平成 19 年 10 月 30 日	北海道支部	第 56 回研究発表会 		札幌市	
平成 19 年 10 月 31 日	東北支部	第 51 回研究発表会 		福島市	75 巻 8 号
平成 19 年 10 月 ~11 月	行事企画委員会	名称変更を記念するシンポジウム 		東京都	75 巻 8 号
平成 19 年 11 月 1 日	東北支部	第 41 回支部研修会 第 31 回地方講習会 		福島市	75 巻 8 号
平成 19 年 11 月 7, 8 日	関東支部	第 58 回支部講演会 		水戸市	75 巻 6,8 号
平成 19 年 11 月 8, 9 日	京都支部	第 64 回研究発表会 		和歌山市	75 巻 6,7 号
平成 19 年 11 月 8, 9 日	水文・水環境研究部会	第 20 回シンポジウム 		岡山市	75 巻 5 号
平成 19 年 11 月 15, 16 日	中国四国支部	第 36 回支部研修会 第 31 回地方講習会 		広島市	75 巻 6,7 号
平成 19 年 11 月 20 日	北海道支部	第 34 回支部研修会 		札幌市	
平成 19 年 12 月 6, 7 日	農村道路研究部会	平成 19 年度農村道路研究集会 		大阪市	75 巻 8 号
平成 20 年 1 月 31 日	北海道支部	地方講習会 		札幌市	

「(社)農業土木学会」の名称が「(社)農業農村工学会」に変わりました

名称変更に係る定款の一部改正について、(社)農業土木学会第 201 回理事会(平成 19 年 5 月 10 日開催)、第 40 回通常総会(平成 19 年 5 月 23 日開催)での議決を経て、平成 19 年 6 月 4 日に主務省庁である文部科学大臣への認可申請を行い、6 月 29 日に認可

され同日より「(社)農業農村工学会」(The Japanese Society Irrigation, Drainage Rural Engineering 英文略称表記: JSIDRE は、変更なし)に名称が変わりました。

学会正会員のうち 60 歳以上 66 歳未満の会費改定(7,200 円)について(再掲)

(社)農業土木学会では、第 200 回理事会(平成 19 年 3 月 28 日)において、平成 19 年 4 月 1 日より 60 歳以上 66 歳未満の会員の年会費を改訂することとし、農業土木学会規則第 9 条第 1 項に、同(60 歳以上 66 歳未満(大学及び研究機関所属の者は除く。)) 年額 7,200 円とする一部改正を行いました。

記

会費(年額)[規則抜粋]

正会員

年額 9,600 円

同(60 歳以上 66 歳未満(大学及び研究機関所属の者は除く。))

年額 7,200 円

同(66歳以上)	年額 4,800円	してお力添え賜りたいとする趣旨によるものです。是非皆さまの
学生会員(大学院生)	年額 5,500円	ご理解を頂き、会員資格の継続、あるいは新規ご入会を頂きます
同(学部学生)	年額 2,500円	ようお願い致します。

この改正は、シニア会員の豊富な経験・知識を当学会の支えと

(社)農業農村工学会名称変更記念論文の募集

農業農村工学会研究委員会

1. 募集の趣旨

近年の学会活動並びに農業農村振興施策の動向は、これまでの農業土木のコアの科学技術体系として代表される灌漑排水、開拓、干拓、農地開発、圃場整備、農地防災といった範囲にとどまらず、農業農村の果たす多面的・総合的役割等に係わる視点を取り入れ、水環境、資源循環、農村環境、地域振興、地域資源管理、海外農業農村開発、自然再生といった幅広い分野に及んでいます。

このように、本学会や会員の活動範囲とその対象が、従来の農業土木を前提としつつも「農業土木」が喚起するこれまでのイメージに収まらない領域まで拡大してきました。

一方、大学や農業高校における農業土木を冠した学科専修等の名称の変更等、社会においてこれまで広く用いられてきた農業土木という名称の多様化が進み、農業土木に関与する者が自らのアイデンティティを主張することが難しくなってきました。

このような状況を踏まえ、研究者、技術者が共通して保有することのできる包括的な科学技術の体系にふさわしい本学会の名称を適切に表現するため、「農業土木学会」から「農業農村工学会」に変更し、学会員が志しを高くして、社会の発展に寄与できるよう変更したものです。

これを契機として本学会は、今後更なる学術と技術の進歩普及に努め、農業農村の発展に寄与し、時代の要請に応えていく大きな責務があります。

そこで、今後の学会の進むべき方向やこれからの学会に期待する事項等について、論文を募集することと致しました(5,000字程度)。

広く一般から応募していただき、将来の農業や農村、それを支える科学技術のあり方を展望するヒントにしたいと考えておりますので、奮ってご応募下さい。

2. 募集要領

(1) 募集内容

農業農村工学会の今後の進むべき方向やこれからの学会に期待する事項等について5,000字程度に纏めて下さい。未発表のものに限ります。

(2) 応募資格

応募者の資格は問いません。特に若い方々からの応募を期待しております。

(3) 応募方法

ワープロ(ワードまたは一太郎)、A4版縦、11ポイント、35文字×35行の横書きとし、表紙に 標題、住所、氏名(フリガナ)、年齢、職業、連絡先、電話・FAX番号を明記の上、文書ファイル3(5)の応募先にメールでお送り下さい。

3. 締切りおよび応募先など

(1) 締切り 平成19年9月末日

(2) 審査 学会内に審査委員会を設けて審査します。

(3) 賞および賞金 最優秀賞1点:10万円、優秀賞2点:各5万円。

(4) 発表等 入賞論文は、農業農村工学会誌「水土の知」に掲載します。入賞された論文の著作権は、農業農村工学会に帰属します。なお、応募原稿は、返却致しません。

(5) 応募先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会 担当:調査研究部

庄田智寿美

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail shoda@jsidre.or.jp

平成19年度会員名簿の掲載事項について

平成19年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがあれば、会員番号と氏名を明記のうえ、郵便、E-Mailまたはファックスで、10月5日(金)までにご連絡下さい。(非掲載項目につきましては、前年度までにご連絡を頂いていて、変更

のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です)

なお、ご連絡がない場合は、掲載に同意されない事項がないものとします。

記

会員名簿掲載事項

【氏名】 【会員番号】 【出身校】 【卒年】
【資格】 【勤務先及び役職】 【自宅住所】

【自宅電話番号】

連絡先

郵便の場合：〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4

農業農村工学会 花塚宛

E Mailの場合：hanatsuka@jsidre.or.jp

ファックスの場合：03 3435 8494

(参考)

会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

1. 利用目的の特定、利用目的による制限

農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。

2. データ内容の正確性の確保
個人情報の正確性、最新性を確保する
3. 安全管理措置、従業者、委託先の監督
安全管理のために、学会職員、印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。
4. 第三者提供の制限
名簿は、(社)農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

農業農村工学会ダム研究委員会シンポジウムの開催について

農業農村工学会ダム研究委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



この度、農業農村工学会ダム研究委員会では、ダム技術の向上を目途として、下記のシンポジウムを開催することとなりました。

記

1. 日時 平成19年10月4日 10:00~17:00
2. 場所 農業土木会館6階大会議室

3. シンポジウムの内容 未定
4. 問い合わせ先:(社)農業農村工学会編集出版部 馬目
☎03 3436 3418

なお、詳細は、次号でお知らせいたします。

名称変更を記念するシンポジウム「農業農村工学会に期待する」(案)の開催

農業農村工学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 趣旨

農業土木学会は、80年に及び活動を継続してわが国の農業、農村ひいては社会の発展に貢献してきました。近年の農業、農村を取り巻く急激な変化への対応のため、学会会員の研究領域、活動の場は、“農業土木”では言い表せない範囲まで拡大しました。

そこで、学会は新たな理念、「新たな 水土の知 の定礎にむけて」を策定し、この理念の実現をめざす旗印としての学会名称の変更を、6月29日、文部科学大臣より社団法人農業農村工学会として認可されました。

この新たな出発に当たり、外部有識者を含む方々から講演をいただき、会員が認識を新たにし、意見交換を行う場を設けますので、奮ってご参加下さい。

2. シンポジウムの内容

- 1) 期日 平成19年10月~11月
- 2) 場所 農業土木会館 6F会議室 (約120名)
- 3) 次第 (未定)
- 4) 問い合わせ先:(社)農業農村工学会調査研究部 菊辻
☎03 3436 3418

地球温暖化と農業資源に関するシンポジウム(案)の開催

農業農村工学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 趣旨

地球温暖化への対応は、将来世代にどのようにして住みやすい環境を残していくかが問題であり、これに適切に対処していくことは、現在を生きる私たちの大きな責務でもあります。また、農林水産省では、農林水産分野における地球温暖化防止策や地球温暖化の進行により懸念される農林水産業への影響に対処するための対策を加速化することとしています。

本シンポジウムは地球温暖化がわが国の食料供給の基盤である農業資源に与える影響と適応策に関する研究活動の現状と展望に

ついて広く社会の皆様にご覧いただくために開催します。奮ってご参加下さい。

なお、詳細は次号でお知らせいたします。

2. 日時 平成19年10月9日
3. 会場 星陵会館(予定、千代田区永田町、固定席200名、Max 400名収容可能)
4. シンポジウムの内容 (未定)
5. 問い合わせ先 (社)農業農村工学会調査研究部 花塚
☎03 3436 3418

平成 19 年度農業農村工学会大会講演会 企業展示コーナー出展募集

平成 19 年度農業農村工学会大会運営委員会

平成 19 年度農業農村工学会大会講演会（平成 19 年 8 月 28 日～30 日，島根大学松江キャンパス）では企業展示の会場を設けることになりました。出展を希望される企業がありましたら，下記までお問い合わせ下さい。

【展示場所】講演会会場，10～20 ブースを予定（1 ブース約 5 m²）

【参加費】2 万円/ブース

【問合せ先】

平成 19 年度農業農村工学会大会運営委員会事務局

〒690 8504 松江市西川津町 1060

島根大学生物資源科学部 木原康孝

Tel 0852 32 6557

FAX 0852 32 6499

E-mail: kihara@life.shimane-u.ac.jp

平成 19 年度農業農村工学会大会の交流会に係る時間等の変更について

平成 19 年度農業農村工学会大会の交流会について，学会誌第 75 巻第 6 号 p.1 において開催時間を 18：00～20：00 と連絡しておりますが，次の下線部のとおり時間等を変更します。

交流会 ホテル一畑 2 階「平安の間」

（松江市千鳥町 30 松江しんじ湖温泉）

平成 19 年 8 月 28 日（火）18：15～20：15

（17：45～18：15 歓迎レセプション 神楽の公演，お茶席）

当日は大学から専用バスを運行します。（16：45 頃から順次発車，最終 17：40）

交流会終了後は JR 松江駅方面へ専用バスを運行します。

平成 20 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成 20 年度の農業農村工学会賞（上野賞，沢田賞を除く。）を，第 75 巻 6 号，p.83 の募集要項に則って，推薦書によりご推薦下さい。

締切りは，平成 19 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

平成 20 年日本農学賞候補の推挙について

平成 20 年度日本農学賞の候補を下記によりご推挙いただきたいと存じます。適当と認められる候補がありましたら下記の規程により，平成 19 年 9 月 15 日までにご推薦下さいますよう，お願い申し上げます。

記

日本農学賞候補推挙取扱規程

第 1 条 この規程により，本会会員で次の条に該当する業績をあげたものに対し，日本農学賞候補に推挙する取扱いを行う。

第 2 条 推挙する業績は，発表された論文または著書とし，本学会を代表する業績として，十分その価値が評価されるもの

とする。

第 3 条 推薦者（正会員）は，毎年 9 月 15 日までに，次の事項を記し，会長に推薦する。

ただし，必要ある場合は推薦者に関係資料の提出を求めることができる。

（イ）候補業績（論文，著書名）

（ロ）候補者氏名（ふりがな）

（ハ）候補者所属，職名，学位

（ニ）候補者連絡先

第 4 条 推挙の決定は，理事会が行う。

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集！！

農業農村工学会行事企画委員会
農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 cpd、また、通信教育で最大年間 18 cpd で取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつ CPD 機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03 5777 2099) でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(TEL.03 5777 2098)

4. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

平成 19 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度 (平成 19 年度、原則 1 件 20 万円以内) です。

本年度の申請締切は平成 19 年 9 月 14 日 (金) です。助成金を希望されるグループは期限までに、所定の様式 (末尾参照) で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申込みください。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容 (申請の意義、準備の状況、将来の展望など) を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。
4. 助成対象：申請できる条件 (助成対象) は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者 (本学会員) をおき、構成員 (本学会員以外も可) は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後 1 年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出及び審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請書作成」の助成金申請様式

締切 (平成 19 年 9 月 14 日)

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛 (tkiku@jsidre.or.jp)

必要記載事項：

- (1) WG 名 (または部会名)
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名 (仮)
- (5) 研究の目的と内容 (500 字程度)
- (6) 研究資金申請応募先 (予定)

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成17年度までに40件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058 口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

農業農村工学会災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年毎更新）に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取扱います。

「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」発行のお知らせ

この度、「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」が発行されましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申込下さい。

書籍名...「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」

価 格...3,200円（消費税内税、送料学会負担）

規 格...A4版 約170ページ

申込方法

I. 役所等で、公用として購入される場合

ファックスかメールでお申込ください。様式は問いません。

ご希望冊数、送付先住所、請求書の宛名をご記入ください。

II. 個人、会社で購入される場合

現金書留：書籍代金と、書籍名、冊数を書いた文書をご同封ください。

郵便振替(00160-8-47993)：振替用紙の通信欄に書籍名、

冊数をご記入ください。

(社)農業農村工学会事務局 河合あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

申込先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

E mail:maki@jsidre.or.jp

**国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について**

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2007年6月末には Vol 5 No .2 が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象

環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申込みいただけます。

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
編集事務局 (投稿先) のお知らせ**

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007年6月末には Vol 5 No .2 が発刊されました

我が国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませ

が、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策,

地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

編集体制 2006.1.1~2008.12.31)

- Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan
- Editors 13カ国から 14名
- Editing Board 32名
- Managing Editors
Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG
Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea
Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！

農業農村工学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ

に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 り 4 ページ厳守)
12 号 農業用水の利用形態の変化について 社会環境の変化と地球温暖化への対応 (仮)	公募終了	平成 19 年 8 月 15 日
76 巻 1 号 農業水利施設の大規模地震対策の取組みについて (仮)	平成 19 年 8 月 24 日	平成 19 年 9 月 14 日
2 号		
3 号 基幹水利施設のストックマネジメント (仮)	平成 19 年 9 月 25 日	平成 19 年 10 月 15 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷り上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、**刷り上がり 1 ページ**(1,800 字程度) で、写真を 1 ~ 2 枚程度入れてください。

私の薦める本は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内(1,200 字) で、原稿には表紙の写真を含めて下さい

第76巻1号テーマ「農業水利施設の大規模地震対策への取組み(仮)」

1995年に発生した兵庫県南部地震を契機として、我が国における地震対策への取組みが変化してきました。それまで地震に強く安全だと考えられていた我が国の土木構造物が、想像以上に多くの被害を受けました。

兵庫県南部地震以降においても、鳥取県西部地震や最近では能登半島地震など震度6弱を超えるような大きな地震が日本各地で発生しており、多くの被害が生じています。その中でも、新潟県中越地震及び新潟県中越沖地震は、貯水池や水路などに被害が発生し、農業水利施設に対して対策の必要性を考えさせられる地震となりました。

中央防災会議においては、東海地震、東南海地震、南海地震お

よび首都直下地震などの発生確率の高い大規模地震について、その地震動の大きさ、震度予測図、被害想定など多岐にわたり検討され公表されております。これらの地域に存在する農業水利施設はもとより、全国各地に存在する農業水利施設にとって、今後これらのデータを有効に活用し、大規模地震対策への対応を行うことが必要な時期にきているのではないのでしょうか。

そこで、今後の農業水利施設における大規模地震対策への一助となるよう、農業水利施設に関する耐震性照査、耐震設計、耐震工等の実施事例あるいはそれに関する技術動向等、農業水利施設を大規模地震から守る取組みに関する報文を、行政分野、研究分野や技術分野などから広く募集します。

第76巻3号テーマ「基幹水利施設のストックマネジメント」(仮)

農業用ダムや頭首工をはじめとする農業水利施設のストックは、食料安全保障や国土保全、親水、生物多様性の保全などの多面的機能を発揮してきており、順次更新時期を迎えるこれら施設を適切に管理し、その機能を保全していくことが今後の課題となると指摘されてから10年近い時間が経過しようとしています。

この間、農業水利施設の機能診断や補修・補強にかかる技術の開発や試行的な取組が各地で実施されてきましたが、平成18年度の食料・農業・農村政策審議会農村振興分科会農業農村整備部会技術小委員会において、ストックマネジメントの指針ともなる「農業水利施設の機能保全の手引き」が取りまとめられ、また、国も平成23年度までにすべての国営造成施設を機能診断する方針を打

ち出すなど、いよいよ本格的にストックマネジメントを実施する時代に突入することとなりました。

手引きにおいてストックマネジメントの考え方は、「農業水利施設の有する機能に着目し、その性能を最適な手法によって一定の範囲に維持すること」とされており、小特集では、農業水利施設の機能と性能、性能の管理基準の考え方、経済性や時期決定を含めた対策工法の決定手法などを紹介することとしています。

これに加え、各地における先駆的な基幹水利施設に関する機能診断調査・評価、対策工法の検討等のストックマネジメントの取組を紹介したいと考えておりますので、この具体的な事例について広く報告を公募いたします。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知(農業農村工学会誌:旧/農業土木学会誌)」平成20年夏季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成20年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で「水利遺構:先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第76巻(平成20年1~12月号)のうち、特に夏季の表紙写真を募集します。奮ってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業農村工学技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってくるようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのな

い風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記してください。

3. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限りです。

4. 締切 平成19年9月30日(夏季の写真)

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花など

の情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

平成 19 年度東北支部総会・第 51 回研究発表会
並びに第 41 回支部研修会・第 31 回地方講習会の開催について(第 2 報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期 日 平成 19 年 10 月 31 日(水), 11 月 1 日(木)

「土地改良事業における費用対効果分析

2. 会 場 福島市「福島テルサ」

手法の見直し」

〒960 8101 福島市上町 4 25

15:20~15:30 閉 会

☎024 521 1500

本大会の会場に福島県における農業農村整備事業の取り組みを紹介する「パネル展示コーナー」を設営します。

3. プログラム

(支部研修会・地方講習会の詳細は、本誌第 75 巻第 9 号掲載予定の「第 3 報」を参照願います。)

4. 参加申込みと参加費振込先

<第 1 日目> 10 月 31 日(水)

平成 19 年度の大会全般を福島県が担当しますが、研究発表会のプログラム編集は山形大学が担当します。

(1) 総会並びに研究発表会

そのため、『参加申込み・参加費納入先(A)』と『研究発表申込み(B)』が、それぞれ下記のように異なりますので注意してください。

9:00~9:30 受 付

9:30~10:15 支部総会

10:15~10:45 支部賞受賞式

10:45~11:00 休 憩

11:00~12:00 特別講演「水から考える地域づくり」(仮題)

講師: 柴崎直明氏(福島大学共生システム理工学類教授)

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~17:00 第 51 回研究発表会

(2) 情報交換会

18:00~19:30 会場:「サンパレス福島」

A. 参加申込み・参加費納入先

(1) 参加費内訳

総会並びに研究発表会 3,000 円(学生会員 2,000 円)

支部研修会並びに地方講習会 7,000 円(非会員 8,000 円)

情報交換会 5,000 円

昼食 1,000 円(1 食分)

(会場周辺にも食事をする場所はありますが、弁当を手配しますので、ご利用下さい。)

<第 2 日目> 11 月 1 日(木)

(3) 支部研修会・地方講習会

9:00~9:30 受 付

9:30~9:40 開会挨拶

9:40~12:00 第 41 回支部研修会『農村の元気 UP~ふくしまからの便り』

「小野町に定住して」(仮題)

講師: 杉岡直人氏(農業者, 小野町ふるさと暮らし支援センター副理事長)

「番組制作を通しての人とのふれあい」(仮題)

講師: 蘭草英己氏(福島テレビアナウンサー)

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~15:20 第 31 回地方講習会

「農業水利施設の機能保全の手引き」の解説

例

農業農村工学会東北支部総会・研修会参加申込書

所属機関名: _____

所在地: (〒 -) _____

連絡者名(ふりがな): _____

電話: FAX: _____

Email: _____

所属	氏名	総会・研究発表会			研修会・講習会		合計金額
		参加費 (学生会員)	昼食	情報 交換会	参加費 (非会員)	昼食	
		3,000 (2,000)	1,000	5,000	7,000 (8,000)	1,000	
例・福島県	福島太郎	3,000	1,000	5,000	8,000	1,000	18,000
例・山形大学	福島花子	2,000	1,000				3,000
総合計金額							21,000

(2) 申込みおよび問合せ先

〒960 8670 福島県福島市杉妻町 2 16

福島県農林水産部農村計画グループ 廣田雅幸

☎024 521 7405 / FAX 024 521 7545

Email : hirota_masayuki_01@pref.fukushima.jp

(3) 参加費の振込先

銀行名 東邦銀行 県庁支店(店番号103)

口座番号 普通 1352944

加入者名 農業土木学会東北支部 代表 鈴木貞夫

手数料は振込者負担をお願いします。

(4) 参加費の納入と取り消し等

参加費の納入は、申込みと同時に銀行振込で全額納入してください。

なお、参加取り消し等による参加費の返金には応じかねますので、ご注意ください。

(5) 参加申込み期限

平成18年10月5日(金)

B. 研究発表申込方法

(1) 講演申込み/問合せ先について

講演要旨集原稿に投稿票を添えて、下記へお申込みください。

〒997 8555 山形県鶴岡市若葉町1 23

山形大学農学部 安中 武幸(あんなか たけゆき)

☎0235 28 2903 / FAX 0235 28 2901

E-Mail : annakt@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

(2) 要領

原稿の書き方・投稿票については、下記東北支部開設のホームページをご覧ください。

書式がダウンロードできます。

(3) 発表時間・発表手段

発表時間は15分以内(発表12分、質疑3分)

発表補助手段(パソコン使用可(Power Point, CD-R, RW およびUSBメモリ使用可))

(4) 講演申込み受付期間

平成19年8月6日(月)~平成19年9月7日(金)【締切厳守】

5. 会場への案内

(1) JR, 高速バス利用の場合

・JR福島駅東口から徒歩10分

(2) 航空機利用の場合

・福島空港より、シャトルバス・JR利用もしくは乗り合いタクシー(前日まで要予約)で約75分

(3) 自家用車の場合

・東北自動車道福島西ICから約20分

・東北自動車道福島飯坂ICから約15分

自家用車の場合、福島テルサ駐車場を利用できますが、有料(100円/30分、ただし2時間まで無料)となりますので、ご注意ください。

6. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので、ご了承下さい。

東北支部大会の最新情報は下記ホームページでお知らせいたしますので、ご活用ください。

<http://www.tr.yamagata-u.ac.jp/~ohkubo/sibu.html>

第58回関東支部大会講演会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



第58回農業農村工学会関東支部大会講演会を11月7日(水)および11月8日(木)の2日間にわたり茨城県にて開催いたします。

(6月号の第1報でお知らせした日程から変更となりましたのでご注意ください。)

詳細は下記のとおりですので、多数のご参加をお待ちしております。

記

1. 主催 社団法人農業農村工学会関東支部

後援 農林水産省関東農政局, 茨城県

2. 大会および講演会

(1) 日時 平成19年11月7日(水)

・受付 9:00~10:00

・支部大会 10:00~11:00

・講演会 11:00~17:00

(2) 会場 茨城県市町村会館

・受付 1階エントランスホール

・支部大会 1階講堂

・講演会 1階講堂, 2階大会議室, 2階201会議室

【会場問合せ先】

茨城県市町村会館

〒310 0852 茨城県水戸市笠原町978 26

☎029 301 1242

3. 情報交換会

(1) 日時 平成19年11月7日(水) 17:30~19:30

(2) 会場 フェリヴェール・サンシャイン(水戸市白梅2 3 86)

4. 現地研修会

(1) 日時 平成19年11月8日(木)

8:50集合 JR常磐線 水戸駅南口

9:00出発

15:00解散 つくばエクスプレス つくば駅

15:30 " JR常磐線 土浦駅

(2) コース(予定)

・土浦市 経営体育成基盤整備事業 手野地区(蓮田のほ場

整備)

- ・茨城県霞ヶ浦環境科学センター 他

5. 講演会、情報交換会および現地研修会の参加申込み方法

(1) 申込み

「第58回農業農村工学会関東支部大会講演会参加申込書」に必要事項をご記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mailまたはFAX、郵送にてお申込みください。

- ・郵送にてお申込みの場合は、コピー（控え）をとっておい
- てください。
- ・支部大会もしくは講演会のみ参加の場合においても、申込みをお願いします。

(2) 申込み期限

平成19年8月31日（金）

(3) 参加費

- ・講演会 6,000円（昼食代1,000円含む）
近隣に食事場所が少ないため
- ・情報交換会 5,000円
- ・現地研修会 5,000円（昼食代1,000円含む）

(4) 会費の納入方法

参加申込みと同時に下記【会費の振込先】に全額前納してください。

なお、申込み後のキャンセル・変更については8月31日（金）以前の申出に限りまして、振込手数料等の実費を差し引き返金いたします。

9月1日（土）以降のキャンセルにつきましては応じかねますので、ご了承のほどよろしく申し上げます。

【留意事項】

振込手数料は、各自にてご負担願います。

【会費の振込先】

常陽銀行 県庁支店（普通）1236327

フリガナ：ノウギョウドボクガツカイカントウシブタイカイ
ジムキョクチョウ ヤス ミツヨシ

名称：農業土木学会関東支部大会 事務局長 安 光美

振り込み元が判明できるように所属、氏名等をご記入ください。

(5) 申込み先および問合せ先（事務局）

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978-6

茨城県農林水産部農地局農村計画課（担当 大越，飯塚，田村）

☎029 301 1111（代表）【内線】4158，4145

Fax 029 301 4169

E-mail：to.tamura@pref.ibaraki.lg.jp

(6) 申込み様式

申込み様式は、茨城県農林水産部農村計画課ホームページ上にも掲載してありますので、ファイルをダウンロードしてご利用いただくことも可能です。

URL <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/noukeikaku/>

第58回農業農村工学会関東支部大会講演会参加申込書

ふりがな 所属名		電話番号	
ふりがな 申込者氏名		FAX番号	
所属所在地	〒		
ふりがな 参加者氏名	大会講演会 (11月7日) 出席 欠席×	CPD番号 (農業土木 技術者継続 教育機構)	情報交換会 (11月7日) 出席 欠席×
		現地研修会 (11月8日) 出席 欠席×	銀行振込者所 属・氏名
<例> いはらき 茨城太郎		123456789	県×課 水戸 梅夫

講演会、情報交換会および現地研修会の欄は、出席の場合は を、欠席の場合は×を記入してください。

6. その他

(1) 会場への案内

- ・大会講演会：JR水戸駅南口から県庁舎への直行バス（15～20分）の県庁舎バス停下車徒歩3分または、常磐自動車道水戸ICから約9.0km（約15分）
- ・情報交換会：JR水戸駅南口から徒歩約10分、タクシーで約3分（大会講演会会場から送迎バスが出ます。）

(2) 宿泊場所

宿泊場所の斡旋は行いませんので、下記のホームページの宿泊施設一覧を参考にいただき、各自でご手配をお願いします。

【参考】(社)水戸観光協会ホームページ（☎029 224 0441）

- ・宿泊施設一覧

URL <http://www.mitokoumon.com/yado/index.html>

平成19年度 九州支部第88回講演会・ポスターセッション
第30回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時

平成19年10月18日(木)9:30~17:00:講演会・ポスターセッション

19日(金)9:30~16:00:講習会・シンポジウム(午前)現地見学会(午後)

2. 会場(講演会・ポスターセッション・講習会・シンポジウム)

ルネッサンスホテル創世

〒840 0804 佐賀県佐賀市神野東2 5 15 ☎0952 33 5511

【<http://www.rs-sousei.jp/>】

JR 佐賀駅・佐賀バスセンターより徒歩5分

3. プログラム

(1) 10月18日(木):講演会・ポスターセッション

9:00~9:30 受付

9:30~10:00 開会式(第2会場)

開会あいさつ

農業農村工学会 九州支部長(宮崎大学農学部教授)

秋吉 康弘

来賓祝辞

[未定]

歓迎あいさつ

佐賀県県土づくり本部 副本部長 牟田 香

10:00~10:20 支部賞表彰式(第2会場)

支部賞発表

九州支部賞 選考委員長(九州大学大学院教授)

大坪 政美

支部賞授与

農業農村工学会 九州支部長(宮崎大学農学部教授)

秋吉 康弘

10:30~17:30 講演会(第1~4会場)

第1会場 ヨーロベ(4F)

第2会場 ミューズ(4F)

第3会場 アテナ(4F)

第4会場 スペランザ(3F)

12:00~17:00 ポスターセッション(第5会場)

第5会場 スペランザ(3F)横のラウンジ

(2) 10月19日(金):講習会

場所:第1~2会場(ヨーロベ・ミューズ 4F)

9:00~9:30 受付

9:30~9:40 開会あいさつ

農業農村工学会九州支部長(宮崎大学農学部教授)

秋吉 康弘

9:40~10:40 「農業水利施設の機能保全の手引き」の解説

農林水産省農村振興局水利整備課施設管理室室長

米田 博次

10:50~11:50 「土地改良事業における費用対効果分析

手法の見直し」

農林水産省農村振興局事業計画課課長補佐

利根 基文

11:50~11:55 閉会

(3) 10月19日(金):シンポジウム

場所:第3会場(アテナ 4F)

時間:9:30~11:30

課題「九州・沖縄における水と土に関する諸問題」

「有明海奥部干潟域における脱窒菌群の生息分布と脱窒速度について」

鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程

古賀あかね

「生態系モデルならびに非物理モデルによる富栄養湖の水環境評価」

九州大学大学院生物資源環境科学府 齋 幸治

「Heavy metal pollution of river sediment and agricultural soil in Hanoi, Vietnam」

九州大学大学院生物資源環境科学府 Nguyen Thi Lan Huong

ポスターセッションの表彰式

総司会 鹿児島学農学部准教授 肥山 浩樹

(4) 10月19日(金):現地見学会

集合時間:12:50

集合場所:ルネッサンスホテル創世(正面玄関前)

予定コース:(出発)ルネッサンスホテル創世13:00 13:

30 国営総合農地防災事業(佐賀中部地区)14:

30 15:00 佐賀城本丸歴史館16:00 16:10

JR 佐賀駅(解散)

4. 参加費用

	10月18日(木)		10月19日(金)		
	講演会 参加費用	昼食	講習会 参加費用	現地見学会 参加費用	昼食
学生料金	2,000円	1,000円	2,000円	2,000円	1,000円
一般料金	4,000円	1,000円	4,000円	3,000円	1,000円

参加費内訳

講演会:4,000円(学生2,000円)

講習会:4,000円(学生2,000円)

現地見学会:資料代1,000円(学生1,000円),バス代経費

2,000円(学生1,000円)

5. 講演会の講演申込

平成19年度の大会全般を佐賀県が担当しますが、講演会等のプログラム編集は宮崎大学が担当します。講演申込み(原稿投稿先)は下記によりお申込み下さい。

(1) 投稿締切 平成19年8月31日(金)

(2) 投稿先

〒889 2192 宮崎市学園木花台西11
宮崎大学農学部 稲垣 仁根 宛
☎0985 58 7239(直通) FAX 0985 58 7239
E-mail: a03221u@cc.miyazaki-u.ac.jp

(3) 投稿要領

講演希望者は、「講演原稿」と別紙「講演会投稿票」を投稿先(宮崎大学農学部稲垣)までお送り下さい。講演会投稿票には、演題・氏名・勤務先・所属等を記入の上、フロッピーディスクまたはメールの添付ファイルで投稿先までお送り下さい。

(4) 原稿の書き方

図・表・写真等を含めて、1題につき2ページまたは4ページとし、3ページや5ページ以上の原稿は受け付けません。原稿や投稿票の作成方法は農業農村工学会ホームページ【<http://www.jsidre.or.jp/>】「平成19年度支部大会投稿票」に掲載されていますので、参照またはダウンロードして下さい。

(5) 講演方法

1題につき、質問・交代時間を含めて12~15分程度の発表とします。なお、講演の補助機材としてパソコン(OS:WindowsXP,ソフト:PowerPoint 2003)とプロジェクターを事務局で用意しますが、OHPやスライドは準備しませんので、ご了承下さい。

6. ポスターセッションの申込

近年、九州支部講演会においては、学生会員の講演件数が増加しています。また、平成13年度からは、シンポジウムを支部講演会と同時に開催し、内容の充実を図っています。

したがって、1課題当たりの講演時間を確保し、プログラムの編成を容易にするために昨年度に引き続き口頭発表に加えてポスター発表を企画しております。

このポスター発表は、研究の背景や成果および将来への展望などを発表者と参加者が1対1の差し向かいで討議できるという口頭発表では現実しがたい特徴を備えています。特に、よく準備されたポスターとプレゼンテーションは、参加者に感銘と刺激を与

えるなど、実り多い討論をもたらすことが期待されます。

本年度も、原則として学生会員(学生部・研究生・大学院修士)を対象に募集します。なお、ポスターセッションは、会場のスペースの関係で発表者の制限を設ける場合がありますのでご了解下さい。また、発表者の中からポスター賞を若干名授与します。

(1) 申込締切 平成19年9月7日(金)

(2) 申込先

ポスターを講演投稿先(宮崎大学農学部稲垣)までお送り下さい。ポスターは講演要旨集に収録します。

(3) 枚数 1課題A3版2枚以内

(4) その他

ポスターは、10月18日(木)12:00までに本人の責任で所定の位置に掲示して下さい。

7. 講演会・講習会等の参加申込

学会ホームページ上の「参加申込書」に必要事項を記入の上、所属機関ごとに取りまとめ、下記によりお申込み下さい。なお、参加費用については、原則、銀行振込でお願いします。

(1) 申込先

農業農村工学会九州支部講演会・講習会運営事務局(事務局長:吉岡靖博)

佐賀県 県土づくり本部 農山漁村課 計画調整担当:中村・坂口

〒840 8570 佐賀県佐賀市城内1159

☎0952 25 7124 FAX 0952 25 7284

E-mail: nakamura-yoshimitsu@pref.saga.lg.jp

E-mail: sakaguchi-osamu@pref.saga.lg.jp

(2) 申込期限 平成19年8月31日(金)

なお、会場の都合により定員になり次第締切りますので早めにお申込み下さい。

(3) 申込方法

メールまたはFAXにより申込先(佐賀県農山漁村課中村または坂口)までお申込み下さい。なお、お電話による申込みは誤手配等のトラブルの原因になりますので、ご遠慮下さい。また、変更や取消・追加がある場合は、必ず書面にてご連絡下さい。(申込書の控えを必ず保管してください)

8. 宿泊・昼食の案内

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各所属(各自)でお申込み下さい。なお、宿泊施設は、佐賀観光協会ホームページ【<http://www.7ocn.ne.jp/~s-kanko/>】に掲載されておりますので、参考として下さい。また、昼食を希望される方は、別紙「参加申込書」に必要事項を記入の上、お申込み下さい。

平成19年度 資源循環研究部会研究発表会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農業農村工学会資源循環研究部会では、平成19年度の研究発表会を「バイオマス総合展2007」の併催セミナーとして、10月26日東京ビックサイトで開催します。

資源循環技術に関係する皆様の積極的な参加をお待ちしております。

1. 主催 社団法人農業農村工学会 資源循環研究部会
2. 対象者 農業農村工学会会員、資源循環研究部会員、学生、一般（資源循環研究部会入会につきましては部会ホームページを御覧ください）
3. 開催日時 平成19年10月26日（金）10:00～16:00（予定）
4. 開催場所 東京ビックサイト 国際会議棟6F
5. 発表課題

地域バイオマスを共発酵処理したバイオガスプラントの生成物の特性と好気発酵消化液の土壌改善効果

（独）土木研究所寒地土木研究所 横濱 充宏

汚泥層からの大腸菌群及び有機物の流出防止対策の考察 汚泥層による硝酸性窒素汚濁水の浄化技術の確立に向けて

（独）農業・食品産業技術研究機構農村工学研究所 山岡 賢
バイオガスからの水素製造と地域におけるエネルギー利用

（独）土木研究所寒地土木研究所 大久保 天

小規模で高度処理型のFRP製農業集落排水処理施設の開発
中空糸膜分離装置を用いたJARUS-FM型の開発

（社）地域資源循環技術センター 小西美智孝

ハイブリッド伏流式人口湿地による酪農雑排水の浄化と飼料用稲の栽培試験について

北海道大学大学院農学院 吉友 郁哉

メタン発酵技術を用いた小規模バイオマス利活用システムの開発

（社）地域資源循環技術センター 二階 靖樹

バイオマス利活用施設に係る技術情報提供システムの構築

（社）地域資源循環技術センター 武田 史人

汚泥量調整機構の現状と今後の課題

（社）地域資源循環技術センター 池谷 和哉

（注）現在登録されている課題です。当日のプログラムは、部会ホームページに掲載いたします。

6. 参加申込

(1) 申込方法

部会ホームページ（www.jarus.or.jp）にある聴講申込書にて、電子メールまたはFAXによりお申込み下さい。なお、資源循環研究部会の会員に未加入の方は同時に入会届も同時に提出願います。

(2) 申込期限：平成19年10月12日（金）

(3) 聴講費用

農業農村工学会会員・資源循環研究部会員：4,000円/人

学生：1,000円/人

一般：5,000円/人

聴講費用は、当日の混乱を避けるためなるべく振込をお願いします。

振込期限：平成19年10月12日（金）

振込口座：みずほ銀行浜松町支店 普通預金 2220983

口座名義：農業土木学会資源循環研究部会事務局 関島建志

(4) 申込先および問合せ先：

農業農村工学会資源循環研究部会

事務局：社団法人地域資源循環技術センター（旧：日本農業集落排水協会）

企画情報班 関島あて

〒105 8521 東京都港区芝大門一丁目1番3号 日本赤十字社ビル

☎03 3432 6282 FAX 03 3432 0743

Email: sigen@jarus.or.jp

平成 19 年度農村道路研究集会開催のお知らせ

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村道路研究部会では、以下のとおり第 17 回研究集会および現地研修会を開催しますので、ご案内いたします。

1. 期 日 平成 19 年 12 月 6 日(木) 研究集会
平成 19 年 12 月 7 日(金) 現地見学会

2. 研究集会

- 1) 会 場 : 「大阪赤十字会館 301 会議室(3F)」
〒540 8570 大阪市中央区大手前 2 1 22
(<http://www.pref.osaka.jp/location/index.html> 参照)
- 2) 日 時 : 12 月 6 日(木) 13:00~17:00
- 3) 課 題 : 特定課題 : 「農道の性能設計について」(農林水産省設計課施工調整室) 自由課題(公募)
- 4) 会 費 : 5,000 円/人(登録費, 資料代)

3. 現地研修会

- 1) 見学地 : 堺市南区畑(田園交流基盤整備による集落道工事現場), 貝塚市馬場(農用地総合整備事業による基幹農道と田園空間整備事業による農業庭園)
- 2) 日 時 : 12 月 7 日(金) 9:00~14:00
集合 大阪府庁(<http://www.pref.osaka.jp/location/index.html> 参照)
解散 大阪府庁, JR 日根野駅, 南海電鉄泉佐野駅
(見学会終了後, 日根野駅, 泉佐野駅を經由して府庁着)
- 3) 会 費 : 4,000 円/人(バス・昼食弁当代)

4. 発表申込み・参加申込み

- 1) 自由課題の発表申込みは、下記様式により平成 19 年 10 月 5 日(金)までに事務局へ「FAX」あるいは「E-mail」でお願いします。ただし、発表申込みは執筆者のみとしますので、連名者で発表会に参加される方は別途申込みください。なお、発表論文提出切は 11 月 2 日(金)といたします。
- 2) 発表原稿書式
A4 用紙(縦 余白 : 上マージン 25 mm, 下マージン 27 mm, 左右マージン 25 mm)に横書きで記入してください。連名の場合には口頭発表者名の前に 印を付けてください。論文ページ数は 6 ページを上限とします。

平成 19 年度農業農村工学会農村道路研究集会 発表申込書

氏名(ふりがな)			
所属			
所在地			
電話番号			
E-mail			
発表題目			
現地研修会	参加	不参加	
参加料(合計)			
必要書類	領収書	見積書	納品書
領収書等の宛先			
CPD 番号			

該当するところに を付けてください。
発表のみ : 5,000 円, 研修会も参加 : 9,000 円

- 3) 参加申込みは、下記様式により平成 19 年 11 月 2 日(金)までに事務局へ「FAX」あるいは「E-mail」でお願いします。なお、参加取消しは 11 月 9 日(金)までをお願いいたします。
- 平成 19 年度農業農村工学会農村道路研究集会 参加申込書

氏名(ふりがな)			
所属			
所在地			
電話番号			
E-mail			
研究集会	参加	不参加	
現地研修会	参加	不参加	
参加料(合計)			
必要書類	領収書	見積書	納品書
領収書の宛先			
CPD 番号			

- 4) 参加費は、申込みと同時に下記の銀行口座に納金してください。振込み手数料は各自でご負担ください。なお、会場、バスの手配等の都合上、11 月 9 日以降は半額申し受けますのでご了承ください。

取扱銀行 三井住友銀行 経堂支店 店番号 597
口座番号 6610166
口座名 農道研究部会 会計 竹内康(タケウチヤスシ)

5. 問合せ・申込み先

事務局 : 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科 竹内康
〒156 8502 東京都世田谷区桜丘 1 1 1
☎03 5477 2342 FAX 03 5477 2620
E-mail:bamboo@nodai.ac.jp

6. 宿泊について

各自で、ご手配をお願いします。